

## 日本版DMO形成・確立計画

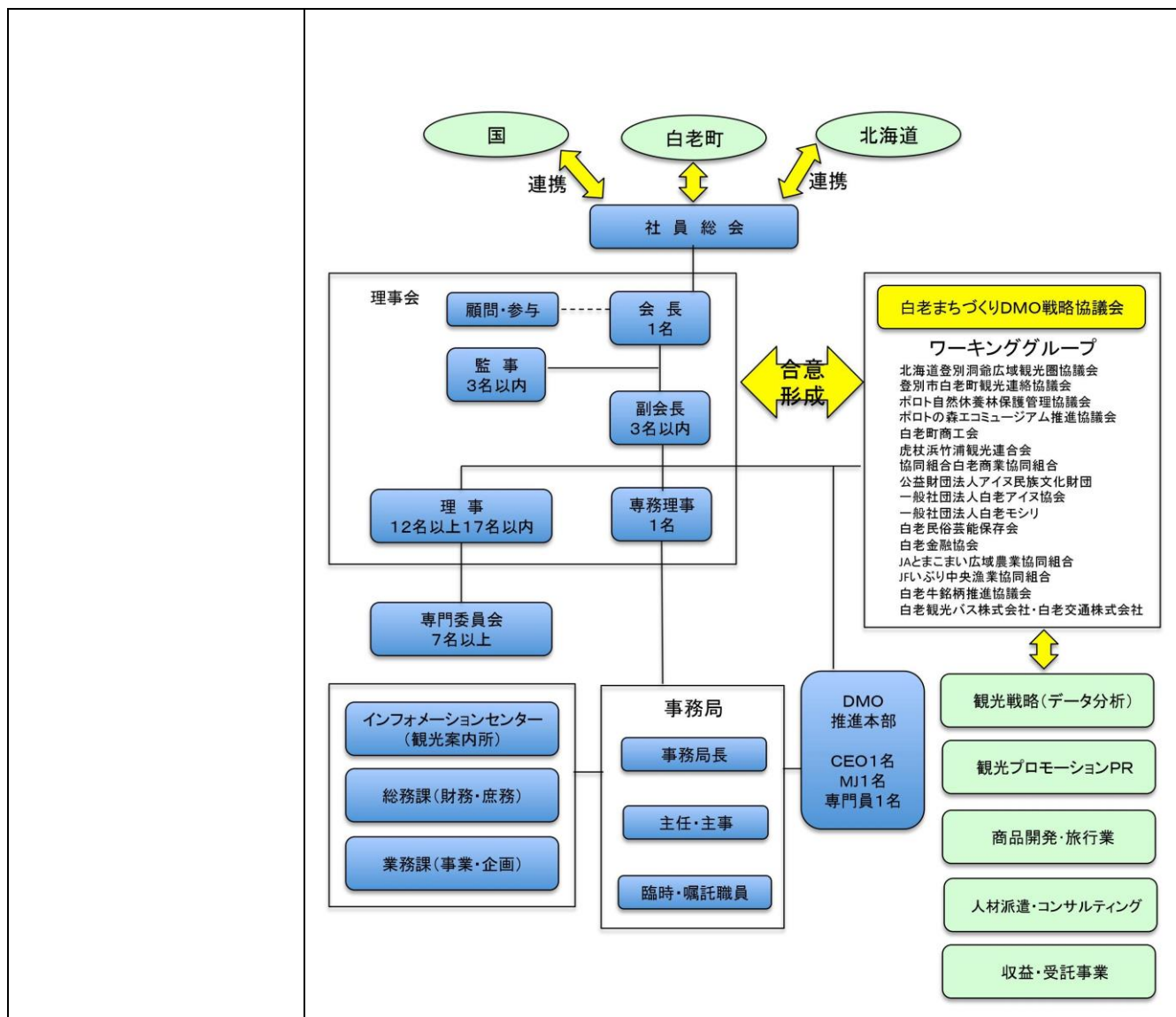
## 1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人白老観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	北海道白老郡白老町	
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目1番1号	
設立時期	1951年(昭和26年)5月 白老町観光協会(任意団体) 設立 1979年(昭和54年)4月 社団法人白老観光協会 設立 2013年(平成25年)4月 一般社団法人白老観光協会 移行	
職員数	15人(事務局正職員4名・臨時職員1名・嘱託職員10名)	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者)	(氏名) 福田 茂穂 (出身組織名) ホテルいずみ 代表取締役	一般社団法人白老観光協会の会長(代表理事)。2017年5月より現職。観光協会会長就任前より、虎杖浜竹浦観光連合会の会長も務め、虎杖浜温泉の振興及びイベントなどに中心的な役割を担っており、地域の活性化に取り組んでいる。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者(専門人材)	(氏名)  (出身組織名)	
各部門(プロモーション)の責任者(専門人材)	(氏名) 千葉 勝宏「専従」 (出身組織名) (一社)白老観光協会 事務局長	当協会に約28年勤務。これまで、国内外におけるプロモーションの業務を多く経験しており、豊富な知識や経験と高い能力を持つ。
各部門(旅行商品の造成・販売)の責任者(専門人材)	(氏名)  (出身組織名)	
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	白老町経済振興課 (観光振興・商業振興・食産業振興) 白老町企画課 (まちづくり・地域公共交通) 白老町アイヌ総合政策課 (アイヌ文化振興・国立アイヌ民族博物館連携) 白老町農林水産課 (一次産業振興・農宿推進) 白老町教育委員会 (文化振興・伝統文化の保存) 白老町建設課 (社会資本整備・象徴空間ウポポイ周辺整備)	
連携する事業者名及び役割	北海道登別洞爺広域観光圏協議会(広域観光連携) 登別市白老町観光連絡協議会(広域観光連携) ポロト自然休養林保護管理協議会(農泊推進) ポロトの森エコミュージアム推進協議会(農泊推進連携・着地型旅行商品の企画) 白老町商工会(商業振興・地域特産品開発)	

(別添) 様式 1

	<p>虎杖浜竹浦観光連合会 (宿泊サービスの改善及び連携)          協同組合白老商業協同組合 (商業振興)          公益財団法人アイヌ民族文化財団 (象徴空間ウポポイとの連携)          一般社団法人白老アイヌ協会 (アイヌ文化に関する情報発信)          一般社団法人白老モシリ (アイヌ文化伝承及び保存)          白老民俗芸能保存会 (アイヌ文化伝承及び保存)          白老金融協会 (資金調達)          JA とまこまい広域農業協同組合 (一次産業振興及び食産業の推進)          JF いぶり中央漁業協同組合 (一次産業振興及び食産業の推進)          白老牛銘柄推進協議会 (地域イベントとの連携)          白老観光バス株式会社・白老交通株式会社 (二次交通との連携)</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) ②          (概要)          多様な関係者が参加する協議会を設置するほか、日常的な調整を実務者レベルで行うワーキンググループや専門委員会を設置し開催          (名称) 白老まちづくりDMO戦略協議会          (構成員) 行政、商工業関係、宿泊・飲食関係、文化・芸術・スポーツ、金融機関、農林水産業、交通関係、環境関係、地域団体(住民)等</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>(仮称) 白老まちづくりDMO戦略協議会を通して、行政・観光関係者等が定期的にコミュニケーションを図るとともに、DMO戦略協議会のワーキンググループとしての位置づけで4か月に1回程度開催する専門委員会等を通して、新たな観光地づくりに参画する機会を作ることで、地域住民一人一人が「観光地域案内人」(まちの宣伝マン)となり観光(観光客)に対する意識改革(おもてなしの心)を図る。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(目的)          白老町の文化及び観光資源の保存保護並びに観光施設の整備改善、観光関係者の資質の向上と観光事業の健全な振興を図りもって観光旅行者の利便の増進安全の確保及び地域住民の生活の向上繁栄に寄与することを目的とする。          (活動の概要)          広告宣伝事業              ○新聞・雑誌広告      ○旅行情報誌(北海道じゃらん)広告掲載事業              ○各種観光事業集客チラシ作製事業      ○誘導案内看板維持管理              ○インターネット事業更新管理          誘客事業              ○道内外誘客事業      ○海外プロモーション誘客事業              ○民族共生象徴空間開設PR事業              ○北海道教育旅行プロモーション事業              ○道内老人クラブ等旅行誘客活動事業          会員指導育成事業              ○会報発行「かんこう白老」          まつり・イベント事業              ○白老牛肉まつり      ○元気まちしらおい港まつり              ○虎杖浜かに・たらこ・温泉三大まつり              ○B i k e J I N祭り@北海道・白老      ○登別漁港まつり</p>

	<p>収益事業管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○白老ふるさと 2000 年の森管理業務</li><li>○自転車・カヌー事業</li><li>○ポロト売店・自動販売機設置事業</li><li>○ワカサギ釣り事業</li><li>○白老ねっと商店事業</li><li>(インターネット販売、ふるさと GENKI 応援寄付金)</li><li>○コーディネーター事業 (鮭遡上見学ツアー、体験旅行プログラム他)</li></ul> <p>事務局運営業務</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○虎杖浜竹浦観光連合会</li><li>○白老 B &amp; B 研究会</li><li>○ポロトの森エコミュージアム推進協議会</li></ul> <p>広域観光連携業務</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○北海道登別・洞爺広域観光圏協議会</li><li>○登別市白老町観光連絡協議会</li></ul> <p>(定量的な評価)</p> <p>当協会が、所管区域の平成 29 年度の観光客入込客数は 173.6 万人、道内外別構成比は、道内客が 8 割以上で道外客は 2 割を下回る。延べ宿泊者数は 9 万人となっている。また、延べ宿泊者数の内、中国、韓国、香港を中心に 11,131 人となっており、前年度対比 198.4%の増となっている。</p> <p>平成 28 年度アイヌ民族博物館の来場者数は 19.7 万人となっている。また、国・地域別来場者数別構成比は、日本人が 64%、外国人が 36%となっている。また、来場者数別構成比の内、韓国が 18.2%、次いでタイが 4.8%、マレーシアが 3%となっている。</p>
実施体制	<p>(実施体制の概要)</p> <p>(一社) 白老観光協会が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農林漁業者など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。</p> <p>(実施体制図)</p>



## 2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

白老町は、北海道の南西部、胆振管内のほぼ中央に位置し、東側は苫小牧市、西側は登別市と隣接しており、東西に細長い行政区域であるため、すでに観光振興においては、広範囲に亘り連携した取り組みが盛んな区域である。また、2020年4月24日には、アイヌ文化復興の拠点である「民族共生象徴空間ウポポイ」が開設される予定であり、ポロト自然休養林をはじめ、ポロト地区を中心とした観光資源を活用し、道内屈指の湯量と泉質を誇る虎杖浜温泉や、地域ブランドである「白老牛や虎杖浜たらこ」などに代表する、豊富な食との連携を図りながら、観光地域づくりの推進を目指すため、地域DMOとして白老町全域を区域設定するのが適切である。



(別添) 様式 1

【観光客の実態等】

平成28年度～平成29年度白老町観光客入込客数実績

(単位：人)

■ 総数

区分	上半期	下半期	合計
平成29年度	1,042,910	692,660	1,735,570
平成28年度	1,066,011	700,671	1,766,682
増減数	▲ 23,101	▲ 8,011	▲ 31,112
前年比	97.8%	98.9%	98.2%

■ 宿泊者数

区分	上半期	下半期	合計
平成29年度	48,674	40,799	89,473
平成28年度	42,767	38,403	81,170
増減数	5,907	2,396	8,303
前年比	113.8%	106.2%	110.2%

■ 日帰り客数

区分	上半期	下半期	合計
平成29年度	994,236	651,861	1,646,097
平成28年度	1,023,244	662,268	1,685,512
増減数	▲ 29,008	▲ 10,407	▲ 39,415
前年比	97.2%	98.4%	97.7%

区分	平成29年度	平成28年度	増減	増減率	
総計	1,735,570	1,766,682	▲ 31,112	98.2%	
■ 虎杖浜温泉地区	902,715	919,763	▲ 17,048	98.1%	
内容	宿泊客(ホテル・旅館)	83,197	75,978	7,219	109.5%
	日帰り(ホテル・旅館)	152,341	166,884	▲ 14,543	91.3%
	飲食店・みやげ	503,819	519,754	▲ 15,935	96.9%
	自然景観	93,157	81,156	12,001	114.8%
	文化・歴史	0	0	0	0.0%
	スポーツ・レクリエーション	58,294	65,607	▲ 7,313	88.9%
	体験・ツーリズム	77	2,114	▲ 2,037	3.6%
	まつり・イベント	11,830	8,270	3,560	143.0%
■ 白老地区	832,855	846,919	▲ 14,064	98.3%	
内容	宿泊客(ホテル・旅館)	6,276	5,192	1,084	120.9%
	日帰り(ホテル・旅館)	153	39,305	▲ 39,152	0.4%
	飲食店・みやげ	417,379	378,984	38,395	110.1%
	自然景観	11,884	15,627	▲ 3,743	76.0%
	文化・歴史	197,821	201,617	▲ 3,796	98.1%
	スポーツ・レクリエーション	56,218	65,381	▲ 9,163	86.0%
	体験・ツーリズム	11,773	12,823	▲ 1,050	91.8%
	まつり・イベント	131,351	127,990	3,361	102.6%

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

平成29年度～平成30年度実績

○ 主な観光施設

- ・ アイヌ民族博物館 H28年 197,187人、H29年 196,330人
- ・ 民族共生象徴空間ウポポイ開設 (2020年4月24日一般公開) 年間来場者目標数 100万人

○ 主な商業施設

- ・ 白老駅北観光商業ゾーン開設 (※2020年4月オープン予定)
  - インフォメーションセンターの指定管理者として民間参入事業者と連携を図りながら当該ゾーンに対して年間来場者目標数 50万人の誘客促進を図る。
  - (仮称) 白老駅北観光商業ゾーン管理運営利用組合を設立し民間飲食施設等との連携を図り誘客促進を図る。

○ 自然

- ・ 倶多楽湖 H28年 27,315人、H29年 28,984人 ・ インクラの滝 H28年 1,940人、H29年 1,293人
- ・ 萩の里自然公園 H28年 13,687人、H29年 10,591人
- ・ ポロトの森キャンプ場 H28年 26,476人、H29年 21,794人

○ 文化

- ・ 仙台藩元陣屋資料館 H28年 7,213人、H29年 5,057人

○ イベント・祭り

- ・ 白老牛肉まつり H29年 32,400人、H30年 48,200人
- ・ 元気まちしらおい港まつり H29年 49,400人、H30年 29,400人
- ・ 虎杖浜かにたらこ温泉三大まつり H29年 11,200人、H30年 12,000人

(別添) 様式 1

<p>【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白老地区：4軒（32室・85名収容）・虎杖浜地区：15軒（270室・758室収容）</li> <li>・民族共生象徴空間ウポポイ周辺における新たな宿泊施設整備 リゾート・ミドルアップークラスのホテル進出の決定を受け連携した観光商品の販売を目指す。</li> </ul> <p>【利便性：区域までの交通、域内交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航空：新千歳空港まで車で約40分 区域内各地へ移動可能</li> <li>・鉄道：JR白老駅から札幌まで約1時間 区域内各地へ移動可能 白老駅舎の改修（観光案内所・自由通路・乗換跨線橋・ホーム延伸） スーパー北斗停車により来訪者の利便性向上を図る</li> <li>・車：白老IC・登別東IC（道央自動車道）札幌まで約1時間 区域内各地へ移動可能</li> <li>・バス：道南バス 室蘭～苫小牧間 区域内各地へ移動可能</li> </ul> <p>【外国人観光客への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白老駅北観光商業ゾーンに整備されるインフォメーションセンターを拠点として、白老駅舎内の観光案内所と連携を図りながら、Wi-Fi（無料）スポットを整備しJNTO認定外国人観光案内所カテゴリーⅡ多言語対応パンフレットの設置や外国語対応のコンシェルジュの配置を目指す</li> </ul>
---

### 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域における顧客の関心度や施策の効果等を把握し検証するため（国内・海外別調査）	WEBサイトサーバーを活用して毎月ごとデータの収集を実施
観光入込客数	観光客の利用状況や動向を把握し検証するため（国内・海外別調査）	白老町が実施する半期ごとに観光施設等に対して入込客数調査を実施し収集
延べ宿泊客数	観光客の利用状況や動向を把握し宿泊実績の検証をするため（国内・海外別調査）	白老町が実施する半期ごとに宿泊施設等に対して入込客数調査を実施し収集
観光消費額動向調査	地域における観光客の動向や観光消費額を把握し回遊性を高めた受入体制の環境整備を検証するため（国内・海外別調査）	白老町が実施する受入体制整備調査検討業務委託事業の調査データを活用

### 4. 戦略

#### (1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p><b>強み (Strengths)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ文化伝承の地</li> <li>・モール温泉や源泉かけ流しの温泉</li> <li>・ポロト自然休養林などの自然環境</li> <li>・白老牛、虎杖浜たらこ、たまご、しいたけ、B&amp;Bなど食のイメージ</li> <li>・クルーズ船が入港できる白老港</li> <li>・着地型観光プログラム造成の取組</li> <li>・アイヌ刺繍など新産業創出の芽生え</li> </ul>	<p><b>弱み (Weaknesses)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目玉となる商業集客施設がない（特産品集約施設もない）</li> <li>・宿泊施設の収容人数が少ない、古い施設が多い</li> <li>・旅行者の滞在時間が短い</li> <li>・二次交通が不足（空港直行、町内周遊）</li> <li>・観光推進体制が脆弱（誘客活動、観光案内等）</li> </ul>

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ民族博物館の一時休業</li> <li>・飲食店等のホスピタリティが低い</li> <li>・観光客数の季節的な偏在(冬期間が弱い)</li> </ul>
外部環境	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民族共生象徴空間ウポポイのオープンを見据えた新規創業・出店</li> <li>・白老駅北観光商業ゾーン内インフォメーションセンターの整備</li> <li>・JR白老駅への新たな特急停車増加</li> <li>・JR白老駅舎内観光案内所の整備</li> <li>・JR白老駅舎内観光トイレの整備</li> <li>・JR白老駅前広場の整備</li> <li>・公共交通の路線拡充(バス路線)</li> <li>・新千歳空港国際線発着枠の拡大</li> <li>・国道36号4車線化整備</li> <li>・道道白老大滝線の整備</li> <li>・新たな宿泊施設の進出</li> <li>・白老港整備に伴うクルーズ船の誘致</li> <li>・外国人旅行客の増加</li> </ul>	<p><b>脅威 (Threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少社会の到来</li> <li>・他の観光地との競争激化</li> <li>・国際情勢の不安定による旅行控え</li> <li>・アイヌ知財の乱用</li> <li>・地球環境の変化</li> </ul>

(2) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 中国・韓国・香港・台湾・タイ・マレーシア・シンガポール等を中心とした団体及び個人富裕層 (FIT)</p>
<p>○選定の理由、 2020年4月にアイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして国家プロジェクト「ウポポイ(民族共生象徴空間)」に国立博物館の開設が決定され、インバウンドを含む国際交流人口が大幅に増加することが想定される。また新千歳空港との直行便就航先のマーケット市場としても今後拡大傾向にあり、個人旅行のリピーター等更なる北海道旅行の誘客促進を図るため。</p> <p>○取組方針 官民や広域連携を中心とした誘客プロモーション活動や国際旅行博等を積極的に実施するとともにマーケット市場の動向に基づいた当町ならではの「多文化共生」を核とした地域の特色(観光資源)を活かした観光地づくりや受入体制の整備など着地型旅行商品の企画造成を促進し強化に向けて取り組んでいく。</p>
<p>○第2ターゲット層 北海道内外の教育旅行</p>
<p>○選定の理由 2020年4月にアイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして国家プロジェクト「ウポポイ(民族共生象徴空間)」に国立博物館の開設が決定され、教育旅行を含む交流人口が大幅に増加することが想定される。アウトドア体験や職業体験等を含めた白老ならではの体験メニューとして教育旅行へのニーズが期待され、札幌圏・首都圏・関西圏を</p>



(別添) 様式 1

<p>はじめとする市場に向け更なる北海道旅行のセールスプロモーション活動を図るため。</p> <p>○取組方針 官民や広域連携を中心とした誘客プロモーション活動を積極的に実施するとともにマーケット市場の動向に基づいた当町ならではの「多文化共生」を核とした地域の特色（観光資源）を活かした観光地づくりや受入体制の整備を促進し強化に向けて取り組んでいく。</p>
<p>○第3ターゲット層 北海道内外の個人旅行</p>
<p>○選定の理由 2020年4月にアイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして国家プロジェクト「ウポポイ（民族共生象徴空間）」に国立博物館の開設が決定され、教育旅行を含む交流人口が大幅に増加することが想定される。アウトドア体験や職業体験等を含めた白老ならではの体験メニューとして教育旅行へのニーズが期待され、札幌圏・首都圏・関西圏をはじめとする市場に向け更なる北海道旅行のセールスプロモーション活動を図るため。</p> <p>○取組方針 官民や広域連携を中心とした誘客プロモーション活動を積極的に実施するとともにマーケット市場の動向に基づいた当町ならではの「多文化共生」を核とした地域の特色（観光資源）を活かした観光地づくりや受入体制の整備を促進し強化に向けて取り組んでいく。</p>

(3) コンセプト

①コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来へつなぐウレシパ・モシリ (ウレシパ・モシリ：万物が互いに育ちあう世界)</li> <li>・「多文化共生」を核とした地域（経済）活性化、 観光地づくり</li> </ul>
②コンセプトの考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの共生の精神を尊び（たつとび）、将来にわたり「町民の笑顔が絶えない平和な町」</li> <li>・アイヌ文化、地域文化、生活文化などを支える人的資源を生かし「生活感幸」を創造</li> <li>・食、自然、温泉、文化等の関係団体等との連携による地域合意形成</li> <li>・交流が生まれる異文化の体験を楽しみ、多文化共生を町民が実感できるまちづくりに貢献</li> <li>・地域の観光産業をはじめ、食や農林漁業等関連産業の振興に寄与</li> </ul>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DMO（一般社団法人白老観光協会）を中心とした、白老町内における地域の関連事業者等を集めて（仮称）「白老まちづくりDMO戦略協議会」を組織し、戦略等の情報の共有化を</li> </ul>

(別添) 様式 1

	図りながら、コミュニケーションの場を4か月に1回程度を設定する
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの調査や分析等を踏まえて、着地型観光プログラムや優位性のある地域資源を活用した旅行商品等の磨き上げを含めた品質の向上、改善を図る</li> </ul>
一元的な情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域として戦略に基づく効果的かつ一元的な情報発信・プロモーション体制の構築を図る</li> <li>・WEB等によるワンストップ窓口の対応を構築するとともにSNSやパンフレット等を活用して地域の魅力を効果的に発信する</li> <li>・旅行会社・メディア等のターゲット層によってそれぞれ異なるアプローチの手法を用いた誘客プロモーション活動を継続的に実施する</li> <li>・体験プログラムのインターネット販売事業者や教育旅行販売をする旅行会社等の連携を強化する</li> </ul>

**6. KPI (実績・目標)**

(1) 必須KPI

指標項目	単位	2018年度 (H30)	2019年度 (R元)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)
●旅行消費額 円/一人	円	12,966	13,500	14,000	14,200	14,300	14,500
●延べ宿泊者数	人	90,000	91,000	100,000	102,000	104,000	105,000
●来訪者満足度	%	46.2	50.0	70.0	75.0	80.0	85.0
●リピーター率 (再来訪意向)	%	59.3	65.0	75.0	80.0	85.0	90.0
●観光入込客数	千人	1,600	1,650	3,000	3,100	3,200	3,300

(別添) 様式 1

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p><b>【検討の経緯】</b> 2018年度より実施している一般観光客（日帰り旅行）を対象としたアンケート調査を行っており、その基準として設定しております。</p> <p><b>【設定にあたっての考え方】</b></p> <p>●旅行消費額 2018年度より実施している一般観光客（日帰り旅行）を対象としたアンケート実績を基本として記載。 2019年度から2020年は、年間の伸び率4%アップ、2021年以降は2%程度で設定。</p> <p>●延べ宿泊者数 2014年度：81,173名、2015年度：80,909名、2016年度：81,170名、2017年度：89,473名。ウポポイ（民族共生象徴空間）開設の2020年度は、周辺エリアに新たに宿泊施設が建設される予定であることから、10万人とした。</p> <p>●来訪者満足度 2018年度より実施している観光消費額調査の来訪者満足度の調査数値を記載。 総合満足度と不満足度において要因を図る重要な指標を設定とした。</p> <p>●リピーター率 2018年度より実施している観光消費額調査の再来訪意向の調査数値を記載。 リピーター率（再来訪意向）を分析することで事業の方向性や推進を検討するため重要な指標を設定とした。</p> <p>●観光入込客数 2018年度より実施している観光消費額調査の観光入込客数の調査数値を記載。 日帰り客数や宿泊客数や訪日外国人客数を調査分析をすることで経済効果を設定とした。</p>
--

(2) その他の目標

指標項目	単位	2018年度 (H30)	2019年度 (R元)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)
●事業で実施した町内を周遊する着地型観光プログラムや教育旅行に対する体験プログラム参加者数	人	620	2,950	4,300	※	※	※
●DMOが支援を行ったアイヌ工芸品・特産品等の新商品の売上高	円	2,300,000	4,600,000	6,800,000	※	※	※
●事業を通じた新規のおもてなしガイド登録者数	人	30	60	100	※	※	※
●観光入込客数	千人	1,600	1,650	3,000	3,100	3,200	3,300

尚、※印においては、2020年度中に目標を設定予定

## ※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

**【検討の経緯】**

今後の人口減少の進展による国内観光市場の縮小などが懸念されている中、2020年にオリパラ開催や民族共生象徴空間が開設される絶好の機会を捉え、北海道や白老町を域外に魅力発信し、交流人口の拡大や地域の魅力向上を図る取組に対する事業の直接的な成果指標として、事業で実施した町内を周遊する着地型観光プログラムや教育旅行に対する体験プログラム参加者数や道外への魅力発信イベント入場者数、DMOが支援を行ったアイヌ工芸品・特産品等の新商品の売上高や事業を通じた新規のおもてなしガイド登録者数が複数年にわたって計測するのに適している。

**【設定にあたっての考え方】**

- 事業で実施した町内を周遊する着地型観光プログラムや教育旅行に対する体験プログラム参加者数  
2018年より実施している地方創生交付金事業のKPI目標数値を記載  
着地型プログラムや教育旅行などの体験プログラム参加者数を増加させ、2021年度以降においては、2020年度までに目標設定を目指す。
- DMOが支援を行ったアイヌ工芸品・特産品等の新商品の売上高  
2018年より実施している地方創生交付金事業のKPI目標数値を記載  
アイヌ工芸品・特産品等の新商品を開発し、売上高を増加させ、2021年度以降においては、2020年度までに目標設定を目指す。
- 事業を通じた新規のおもてなしガイド登録者数  
2018年より実施している地方創生交付金事業のKPI目標数値を記載  
体験プログラムにおけるおもてなしガイド登録者数を増やし、2021年度以降においては、2020年度までに目標設定を目指す。
- 観光入込客数  
2018年より実施している地方創生交付金事業のKPI目標数値を記載  
白老町内における観光入込客数を2020年度より10%増を目指す。

**7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し****(1) 収入**

年度	総収入 (円)	内訳 (円)
2016年度 (28年度)	52,801,553 (円)	<b>【市町村からの補助金】</b> 30,628,649 (円) <b>【市町村からの助成金】</b> 1,295,000 (円) <b>【地方公共団体からの指定管理収入】</b> 8,447,000 (円) <b>【会費収入】</b> 2,195,000 (円) <b>【収益事業収入】</b> 5,388,869 (円) <b>【繰入金収入】</b> 2,633,812 (円) <b>【その他雑収入繰越金】</b> 2,213,223 (円)
2017年度 (29年度)	45,852,827 (円)	<b>【市町村からの補助金】</b> 24,992,862 (円) <b>【市町村からの助成金】</b> 970,000 (円) <b>【地方公共団体からの指定管理収入】</b> 8,446,000 (円) <b>【会費収入】</b> 2,194,000 (円) <b>【収益事業収入】</b> 5,025,185 (円) <b>【繰入金収入】</b> 2,467,044 (円) <b>【その他雑収入繰越金】</b> 1,757,736 (円)

## (別添) 様式 1

2018年度 (30年度)	49,827,288 (円)	【市町村からの補助金】 28,732,335 (円) 【市町村からの助成金】 431,344 (円) 【地方公共団体からの指定管理収入】 8,531,000 (円) 【会費収入】 1,719,000 (円) 【収益事業収入】 5,627,381 (円) 【繰入金収入】 2,706,994 (円) 【その他雑収入繰越金】 2,079,234 (円)
2019年度 (R1年度)	55,869,000 (円)	【市町村からの補助金】 29,078,476 (円) 【市町村からの助成金】 100,000 (円) 【地方公共団体からの指定管理収入】 8,747,000 (円) 【会費収入】 1,719,000 (円) 【収益事業収入】 ・既存事業 7,424,000 (円) ・レンタサイクル事業 386,000 (円) 【繰入金収入】 3,886,517 (円) 【その他雑収入繰越金】 4,528,007 (円)
2020年度 (R2年度)	156,324,490 (円)	【市町村からの補助金】 29,078,476 (円) 【市町村からの助成金】 100,000 (円) 【市町村からの委託金】 7,722,490 (円) 【地方公共団体から指定管理収入】 8,747,000 (円) 【地方公共団体から指定管理収入】 14,953,000 (円) 【会費収入】 1,719,000 (円) 【収益事業収入】 ・既存事業 7,424,000 (円) ・レンタサイクル事業 386,000 (円) ・貸しロッカー事業 1,209,000 (円) ・駅北売店事業 25,000,000 (円) ・大型バス駐車場事業 18,000,000 (円) ・新商品開発 5,528,000 (円) ・旅行商品販売 5,603,000 (円) ・人材派遣 22,440,000 (円) 【繰入金収入】 3,886,517 (円) 【その他雑収入繰越金】 4,528,007 (円)
2021年度 (R3年度)	158,337,490 (円)	【市町村からの補助金】 29,078,476 (円) 【市町村からの助成金】 100,000 (円) 【市町村からの委託金】 7,722,490 (円) 【地方公共団体から指定管理収入】 8,747,000 (円) 【地方公共団体から指定管理収入】 14,953,000 (円) 【会費収入】 1,719,000 (円) 【収益事業収入】 ・既存事業 7,424,000 (円) ・レンタサイクル事業 386,000 (円) ・貸しロッカー事業 1,270,000 (円) ・駅北売店事業 25,000,000 (円) ・大型バス駐車場事業 18,000,000 (円) ・新商品開発 6,080,000 (円) ・旅行商品販売 7,003,000 (円) ・人材派遣 22,440,000 (円) 【繰入金収入】 3,886,517 (円)



		【その他雑収入繰越金】	4,528,007 (円)
--	--	-------------	---------------

## (2) 支出

年度	総支出 (円)	内訳 (円)	
2016年度 (28年度)	51,835,949 (円)	【事業費支出】	15,236,540 (円)
		【収益事業費支出】	11,252,904 (円)
		【特別枠事業費支出】	5,729,948 (円)
		【管理費支出】	14,767,596 (円)
		【特定預金支出】	714,000 (円)
		【繰出金支出】	2,633,812 (円)
		【観光振興推進費】	1,129,255 (円)
		【その他】	371,894 (円)
		【次期繰越収支差額】	965,604 (円)
2017年度 (29年度)	45,204,473 (円)	【事業費支出】	15,599,153 (円)
		【収益事業費支出】	11,150,788 (円)
		【管理費支出】	13,854,011 (円)
		【特定預金支出】	1,023,000 (円)
		【繰出金支出】	2,467,044 (円)
		【観光振興推進費】	1,110,477 (円)
		【次期繰越収支差額】	648,354 (円)
2018年度 (30年度)	48,827,948 (円)	【事業費支出】	15,935,320 (円)
		【収益事業費支出】	11,818,657 (円)
		【特別枠事業費支出】	2,942,115 (円)
		【管理費支出】	13,897,891 (円)
		【特定預金支出】	957,000 (円)
		【繰出金支出】	2,706,994 (円)
		【観光振興推進費】	569,971 (円)
		【次期繰越収支差額】	778,490 (円)
2019年度 (R元年度)	50,910,500 (円)	【事業費支出】	15,978,000 (円)
		【収益事業費支出】	
		・ 既存事業	11,409,000 (円)
		・ レンタサイクル事業	361,000 (円)
		・ 事業関連管理費等	1,500,000 (円)
		【特別枠事業費支出】	1,962,000 (円)
		【管理費支出】	19,249,500 (円)
		【特定預金支出】	1,496,000 (円)
		【繰出金支出】	3,886,517 (円)
		【観光振興推進費】	280,000 (円)
		【予備費】	37,983 (円)
2020年度 (R2年度)	148,145,014 (円)	【事業費支出】	15,978,000 (円)
		【収益事業費支出】	
		・ 既存事業	11,409,000 (円)
		・ レンタサイクル事業	135,000 (円)
		・ 貸しロッカー事業	551,000 (円)
		・ 駅北売店事業	19,175,000 (円)
		・ 大型バス駐車場事業	16,143,074 (円)
		・ 商品開発	4,985,000 (円)
		・ 旅行商品販売	4,514,000 (円)
		・ 人材派遣	20,400,000 (円)

## (別添) 様式 1

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業関連管理費等 5,716,000 (円)</li> <li>・白老駅舎管理業務委託 6,926,000 (円)</li> <li>・インフォメーションセンター管理 20,550,440 (円)</li> <li>【特別粋事業費支出】 1,962,000 (円)</li> <li>【管理費支出】 14,000,000 (円)</li> <li>【特定預金支出】 1,496,000 (円)</li> <li>【繰出金支出】 3,886,517 (円)</li> <li>【観光振興推進費】 280,000 (円)</li> <li>【予備費】 37,983 (円)</li> </ul>
2021年度 (R3年度)	148,598,014 (円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事業費支出】 15,978,000 (円)</li> <li>【収益事業費支出】</li> <li>・既存事業 11,409,000 (円)</li> <li>・レンタサイクル事業 145,000 (円)</li> <li>・貸しロッカー事業 552,000 (円)</li> <li>・駅北売店事業 19,175,000 (円)</li> <li>・大型バス駐車場事業 16,143,074 (円)</li> <li>・商品開発 4,864,000 (円)</li> <li>・旅行商品販売 5,643,000 (円)</li> <li>・人材派遣 20,400,000 (円)</li> <li>・事業関連管理費等 5,150,000 (円)</li> <li>・白老駅舎管理業務委託 6,926,000 (円)</li> <li>・インフォメーションセンター管理 20,550,440 (円)</li> <li>【特別粋事業費支出】 1,962,000 (円)</li> <li>【管理費支出】 14,000,000 (円)</li> <li>【特定預金支出】 1,496,000 (円)</li> <li>【繰出金支出】 3,886,517 (円)</li> <li>【観光振興推進費】 280,000 (円)</li> <li>【予備費】 37,983 (円)</li> </ul>

## (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

平成30年度に認定された地域再生計画「アイヌ文化を核とした交流人口拡大・受入体制整備計画」において、2020年4月24日に開設する「民族共生象徴空間ウポポイ」の魅力発信の核としてプロモーション事業を展開し、観光地としての魅力向上、アイヌ文化への興味・関心を高めるとともに、交流人口の拡大に伴う受入体制の整備を進めており、稼ぐ力の創出を図りながら安定的な運営資金の確保に努め、自立自走を目指した取り組みを進めております。また、受入整備の一環として整備される、インフォメーションセンターの指定管理業務を中心として、地場製品の販売収入の確保や、ウポポイへ来られる大型バス駐車場の利用料収入など、象徴空間ウポポイと連動した事業を実施することにより、より安定的な運営資金の確保に努め、観光地経営に向けた継続的な活動を進めていきます。

## 8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

白老町は、平成27年10月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、2020年4月24日に開設する「民族共生象徴空間ウポポイ」との連携を図ることを目的に、官民一体となった経済活性化に向けた取り組みを推進しており、これから見込まれる交流人口の増加を見据え、

(別添) 様式 1

新たな観光による地域づくりを推進する母体として、一般社団法人白老観光協会を当町における「地域DMO」として登録したいので、一般社団法人白老観光協会とともに申請いたします。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	千葉 勝宏
担当部署名 (役職)	事務局長
所在地	白老郡白老町東町2丁目1番1号
電話番号 (直通)	(0144) 82-2216
FAX 番号	(0144) 82-4517
E-mail	k.chiba@shiraoi.net

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	北海道白老町
担当者氏名	藤澤 文一
担当部署名 (役職)	経済振興課 (課長)
所在地	白老郡白老町大町1丁目1番1号
電話番号 (直通)	(0144) 82-8214
FAX 番号	(0144) 82-4391
E-mail	kanko@town.shiraoi.hokkaido.jp

都道府県・市町村名	北海道白老町
担当者氏名	太田 誠
担当部署名 (役職)	経済振興課観光振興グループ (主幹)
所在地	白老郡白老町大町1丁目1番1号
電話番号 (直通)	(0144) 82-8214
FAX 番号	(0144) 82-4391
E-mail	kanko@town.shiraoi.hokkaido.jp

都道府県・市町村名	北海道白老町
担当者氏名	菊池 拓二
担当部署名 (役職)	経済振興課商業・食推進グループ (主幹)
所在地	白老郡白老町大町1丁目1番1号
電話番号 (直通)	(0144) 82-8214
FAX 番号	(0144) 82-4391
E-mail	syoko@town.shiraoi.hokkaido.jp

